

◆◆◆ 宮崎 豊 議員 ◆◆◆



◆◆◆ 学童クラブの 環境づくりについて ◆◆◆

質 放課後児童クラブ、利用している人の子供たちの人数、利用料をまず伺います。

答 福祉健康課長 長浜保治
小学校1年生から3年生まで

8千円、小学校4年生から6年生は5千円です。3月1日時点での利用人数は、2施設の合計で57名、そのうちの56名が小学校1年生から3年生となっております。

質 実施主体である恩納村のかかわりが弱く、民間任せになっていないか。

答 福祉健康課長 長浜保治
放課後児童健全育成事業補助金を活用して、各学童クラブへ支援を行っています。

質 平成30年度以降の計画について伺います。

答 福祉健康課長 長浜保治
現在、恩納校の敷地内にあります旧音楽室を改築して、平成31年度より学童クラブとして利用する計画となっております。平成32年度、中学校統廃合後の小学校空き教室の活用も、教育委員会や学校との関係機関と連携しながら、さらなる学童クラブの整備についても検討していきたいと考えています。

質 福祉と教育、課が連携、教育委員会としてどのような考え方を持っているか。

答 学校教育課長 石川 司
学校内が一番安心安全を確保で

きる場所なので、今後もこの学童を推進していきたいと思えます。

◆◆◆ 前兼久村道の街灯 について ◆◆◆

質 村道26号線、バイパスへの抜け道、近道なので、利用することも多い。カーブは多いし、道は細いということ、危険な場所になっていきます。「是非、ここは街灯が欲しいな」と、「夜は真っ暗になって危険だし」ということで話がありました。

答 建設課長 大城 学

村道前兼久の上原線については、近年住宅やアパート等がふえてきている状況にあり、また、前兼久団地も村道に隣接しています。今後は現場を確認した上で、街灯が必要であるか検討していきたいと考えております。

◆◆◆ 農業等の振興について ◆◆◆

質 シンカプロジェクトのレタス、今年の状況。

答 農林水産課長 佐渡山安正
2月末現在で、10・5トン、昨年度の生産量と同程度となっております。品質的には2年目ということもありまして、安定したレタスが

◆◆◆ 糸数 昭 議員 ◆◆◆



◆◆◆ 文化の振興について ◆◆◆

質 山田城跡保存管理計画策定事業の進捗をお伺いします。

答 社会教育課長 大城保篤
進捗については、平成29年度に鑑定評価を得たので、平成30年度からは用地買収の事務に取りか

かります。

質 指定区内の地権者との話し合いは、いつから予定しているのか。

答 社会教育課長 大城保篤
地権者については、指定の際に指定に対する同意ということ取得はしております。最終的には「土地を売ってください、公有地化します」ということで伝えております。

質 山田城の取り組みが見えない、今後、どのように取り組んでいくのか。

答 社会教育課長 大城保篤
まず国庫補助要件の充足に向けての条件が7割前後の公有地と、それから遺構データの蓄積に向けて進めてまいります。平成30年度の体制については、上のほうに強化を要望して事務を進めてまいりますと思います。

答 村長 長浜善巳

山田城跡の保存事業は、本当に遅れている状態でございます。平成29年度、鑑定評価も終わりますので、国庫補助の要件、充足に向けて7割前後の公有地化に向けて進めてまいりたいと思っております。

栽培されている状況です。

質 平成30年度、どのようなところに重点を置いて計画されているか。

答 農林水産課長 佐渡山安正
村の苗畑におきまして、パイナップル及びアボカドの試験栽培を行っているところです。村の特産品であるアテモヤ、パッションフルーツに続くさらなる特産品の開発に向けて取り組んでいこうと思っております。

質 今年のモズクは、報告をお願いいたします。

答 農林水産課長 佐渡山安正
今年に入ってから日照不足がかなり影響して、去年並みの生産量になるのではないかなということでは話しております。

◆◆◆ 商工観光振興について ◆◆◆

質 サンゴの村宣言、サンシャイン、もっと大々的に計画できないか。

答 商工観光課長 宮平 寛
40周年事業、また10回目のサンシャインシティでの沖縄めんそーれフェスタでございますので、大きくやっというところで、今調整しているところでございます。

◆◆◆ 農業の振興について ◆◆◆

質 畜産農家は補助や支援を受けて、農家は助成を喜んでいいのか。

答 農林水産課長 佐渡山安正
優良母牛導入事業は、恩納村和牛生産組合からの要望等もございまして、2年間各農家に1頭ずつ、1農家が2頭優良母牛として導入しています。大体これに要した経費が、約100万円近くです。また、子牛を出荷した場合に1頭につき1万円の奨励補助金を出しています。そういったことからしても、農家からは大分喜ばれているものだと思います。

質 近隣市町村の補助制度や支援事業の活用状況と比較して、それは十分だと思えますか。

答 農林水産課長 佐渡山安正
近隣の町村と比較して、農家数は変わらない状況でございます。しかしながら平成28年度末時点で肉用牛の生産頭数については近隣市町村の2分の1程度、豚については約4分の1程度となっております。各市町村における経営規模が異なるものですから、一概に比較することは難しいと考えており

ます。うるま市、宜野座村、そこら辺についてはどういった補助金を出しているか調査はいたしております。今後の畜産関係の補助制度や支援事業について、どのように取り組んでいくのか。

質 今後の畜産関係の補助制度や支援事業について、どのように取り組んでいくのか。

答 農林水産課長 佐渡山安正
繁殖用肉用牛については、高齢化の更新を目的とした優良母牛を導入した場合、登録費用の全額補助を実施していることと考えているところです。豚については、悪臭の低減及び成長促進等を目的として、今年度から肉用豚生産農家にEM技術の指導と資材の提供を行っていく予定にしております。

ヤギについては、優良品種のヤギの導入を支援する優良ヤギ導入支援補助金及び優良ヤギ生産奨励補助金によって、引き続き今年度もヤギ生産について支援していこうというところでございます。

答 村長 長浜善巳

今後肉用牛、また繁殖用肉用牛、また豚、ヤギについて補助金制度で支援してまいりたいと思っております。